

序 文

旭町には、福屋氏により築城された家古屋城をはじめ中世の城跡がいくつか点在しています。今回の携帯・自動車電話無線基地局の建設予定地の市木は、鎌倉時代の中頃以降在地領主福屋氏の領地となり旭町一帯や邑智郡を統治し、芸州と対峙する領内の境界に位置していました。

戦国時代には大内氏や尼子氏の配下に属しましたが吉川氏、周布氏、福屋氏の分領を経て毛利氏に屈し、藩政時代には邑智郡近隣 8 か村の市木組をはじめ参勤交代の駅場（浜田藩の島根県内唯一の）が置かれるなど陰陽を結ぶ枢要な位置にありました。

建設予定地は中世城跡のひとつである高城跡の一部にあたることから発掘調査を実施しました。

調査は、鉄塔が建設される僅かな範囲のもので、高城跡の全容については不明ですが、調査の結果を報告し今後の参考の一助になれば幸いに思います。

おわりに、この調査にご指導を戴きました関係者の皆様とご協力を戴きましたNTT中国移動通信網（株）様に心からお礼申し上げます。

平成 10 年 3 月

旭町教育委員会

教育長 室 田 忠 一

例　　言

1. 本書は平成9年度において、NTT中国移動通信網株式会社の委託を受け実施した市木浄泉寺
携帯・自動車電話無線基地局建設予定地内「よこなごう高城跡」の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の出土遺物、実測図、写真等は旭町教育委員会に保管している。
3. 調査の事業主体および体制は次のとおりである。

事業主体　旭町（旭町教育委員会）

事務局	旭町教育委員会課長	芳川栄祐
	旭町教育委員会社会教育係長	難波泰幸
調査指導	鳥根県教育委員会文化財課	
調査員	旭町建設課工務係長	今田修二
調査補助員	旭町教育委員会社会教育係長	難波泰幸
調査協力者	旭町文化財保護審議委員	宮本均
	旭町文化財保護審議委員	河野明
	旭町文化財保護審議委員	藤本睦夫
	旭町文化財保護審議委員	佐伯充男
	旭町文化財保護審議委員	尾崎寿夫
		藤田晴樹
		小山健二
地元協力者	藤本利春	
	平石安雄	
	平石フサエ	
	佐々木妙子	
	岡本博一	

4. 本書で使用した記号は、SK…土壤　P…ピット（柱穴）を表す。
5. 本書の執筆編集は難波が行った。

本文目次

第1章 調査に至る経緯.....	1
第2章 周辺の遺跡.....	1
第3章 調査の結果.....	3
1. 調査の概要.....	3
2. 検山遺構.....	7
3. 出上遺物.....	9
第4章 まとめ.....	11

挿図目次

第1図 周辺の遺跡.....	2
第2図 周辺の地形と高城跡の位置.....	3
第3図 高城全体測量図.....	4
第4図 高城跡主郭地形測量図.....	5
第5図 上層堆積状況.....	6
第6図 土層堆積状況.....	7
第7図 遺構配置図.....	8
第8図 SK 1 実測図	9
第9図 遺物実測図.....	10

図版目次

図版 1 高城跡全景と周辺の地形.....	12
図版 2 高城跡近景・主郭調査前の状況.....	13
図版 3 主郭調査前の状況・斜面発掘前の状況.....	14
図版 4 完掘状況・ピット配列状況.....	15
図版 5 ピット配列状況（P 3, 5, 6, 7, 8）・ピット配列状況（P 1, 2, 10）.....	16
図版 6 SK 1 炭化物出土状況・SK 1 完掘状況	17
図版 7 土層堆積状況（Dベルト）・土層堆積状況（Cベルト北面）細部.....	18
図版 8 石検出状況・出土遺物 陶磁器.....	19
図版 9 出土遺物 土師質土器 土製品.....	20

第1章 調査に至る経緯

この地帯は広島県とを急峻な山に挟まれ、近年急速に普及してきた携帯・自動車電話の高速自動車道沿線の不適切区間でありその解消のためNTT中国移動通信網株式会社は無線基地局の新設を高城跡に計画し平成8年12月16日調査依頼がなされた。

高城跡は、旭町の東北、瑞穂町と隣接する尾根に沿って所在する城郭跡である。標高420メートル、頂部の最も広い平坦部分を主郭とし、その南側に隣接する面を南1郭、北東に伸びる丘陵上の2つの平坦面を東1・2郭、北西に派生する丘陵上の平坦面を西1郭、北方のやや離れた平坦面を北1・2郭とし、このうち東1郭・東2郭・北1郭が平成元年に中国横断自動車道広島浜田線建設に伴い島根県教育委員会によって調査されている。

今回の建設予定地が現地踏査等の結果、主郭を含む一部であることから建設場所の変更を協議したが既に計画変更は難しい状況にあり、携帯・自動車電話の利便性今日性も考えれば工事はやむを得ないものと判断し、平成9年度において発掘調査を実施することになった。

現地調査は、平成9年4月10日から7月31日までとし旭町教育委員会が実施した。

註 島根県教育委員会では「桜尾城」として調査報告がなされているが、「旭町遺跡分布図Ⅲ」では「高城跡」として周知されている。

第2章 周辺の遺跡

旭町は、浜田市から西南約25kmに位置し、中国山地を背に、桜江町、石見町、瑞穂町、金城町、広島県芸北町に接する。

町内の中心に位置する和田・重富・本郷地区は、1級河川八戸川支流の昭見川・重富川・本郷川ごとに平地がつくられており、この地内にやつおもて古墳群・重富遺跡・小才遺跡がある。

やつおもて古墳群は、重富川右岸のなだらかな丘陵上に立地し、現在確認できるもので24基からなる。前方後円墳・円墳があり、埋葬施設は横穴式石室とするものが多いが、18号墳のように内部に竪穴式石室と箱式石棺が構築された二段築成の葺石・造り出しをもつ全長28m高さ4mの石見地方山間部では最大規模の円墳もある。なお、18号墳は中国横断自動車道広島浜田線建設に伴い取り壊され、現在重富バスタップ下のふるさと歴史公園内に3/4のスケールで復原されている。

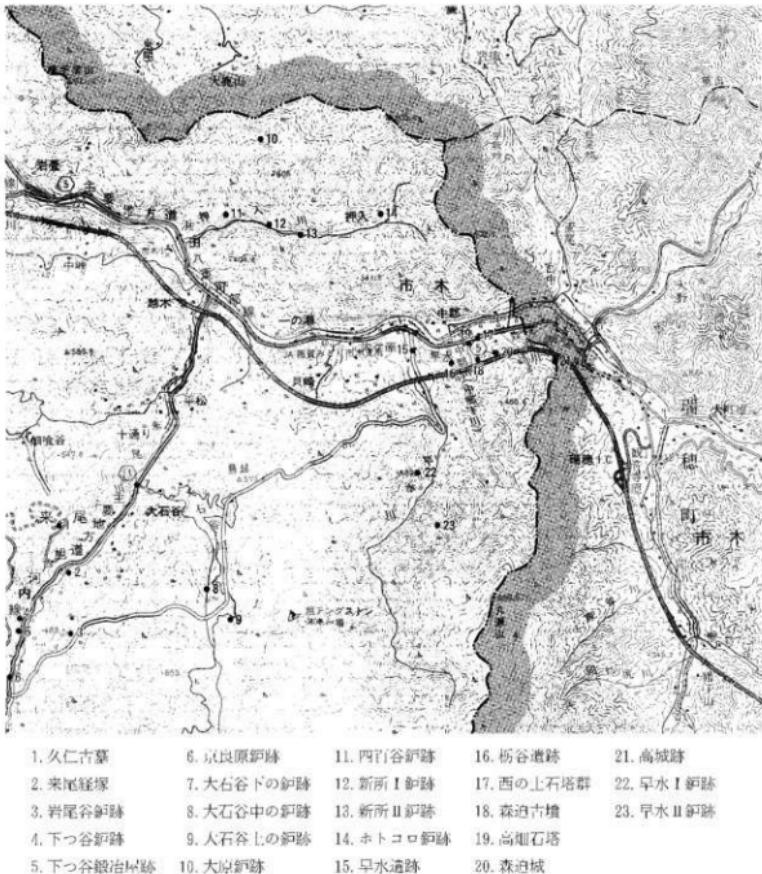
重富遺跡は、やつおもて古墳群の東端の稜線部分から南側斜面に広がる複合遺跡である。主な遺構は、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけてつくられたものと考えられる40基あまりの木棺墓、奈良時代の掘建柱建物跡、土壙、溝状遺構、炭窯、そして斜面に造られた地下式登窯の瓦窯跡等がある。

小才遺跡は、和田地区天津谷の町道防六線沿い北側の丘陵に位置する。ここでは古墳10基、横穴墓2基等の遺跡が発見されている。遺物としては1号墳から鉄刀、鉄鍔、鉄鎌、土鍤、鉄釘、須恵器環、土師器環をはじめとして、いくつかの古墳から須恵器、土師器が出土している。これらの出土遺物の特徴などから古墳、横穴は7世紀を中心に築造され一部は8世紀代にもわたるものと考え

られている。

また、桜江町に接する旭町北側の木田・山ノ内地区にあり現在梨園として造成・植栽された丘陵にも、40基からなる古墳群が確認されている。

今回の調査対象の市木地区は、旭町の東・八戸川の最上流部に位置し、廻りを1000m前後の山に囲まれ南側を広島県大朝町と接し八戸川沿いの丘陵には高城をはじめ森迫城・内ヶ原城などの中世城郭跡が点在している。江戸時代に浜田藩主が参勤交代のとき宿泊した本陣跡もあり、明治以降も陰陽を結ぶ交通の要所として機能してきた。1958（昭和33）年までは邑智郡市木村として村政がしかれていたが、東側を邑智郡瑞穂町に西側を那賀郡旭町に編入され現在に至っている。



第1図 周辺の遺跡 (1/50,000)

第3章 調査の結果

1. 調査の概要

調査地途中までの林道の修復が遅れたため、5月6日より本格的に調査を開始した。

5月16日、立木の伐採と片付けをほぼ終了し、横断・縦断の測量のための基準杭を設定した。

地形測量の終了後5月27日より表上のはき取りを開始した。(杭に合わせ5メートル間隔に幅50センチの跡を基準杭に対して垂直になるように設けた。)

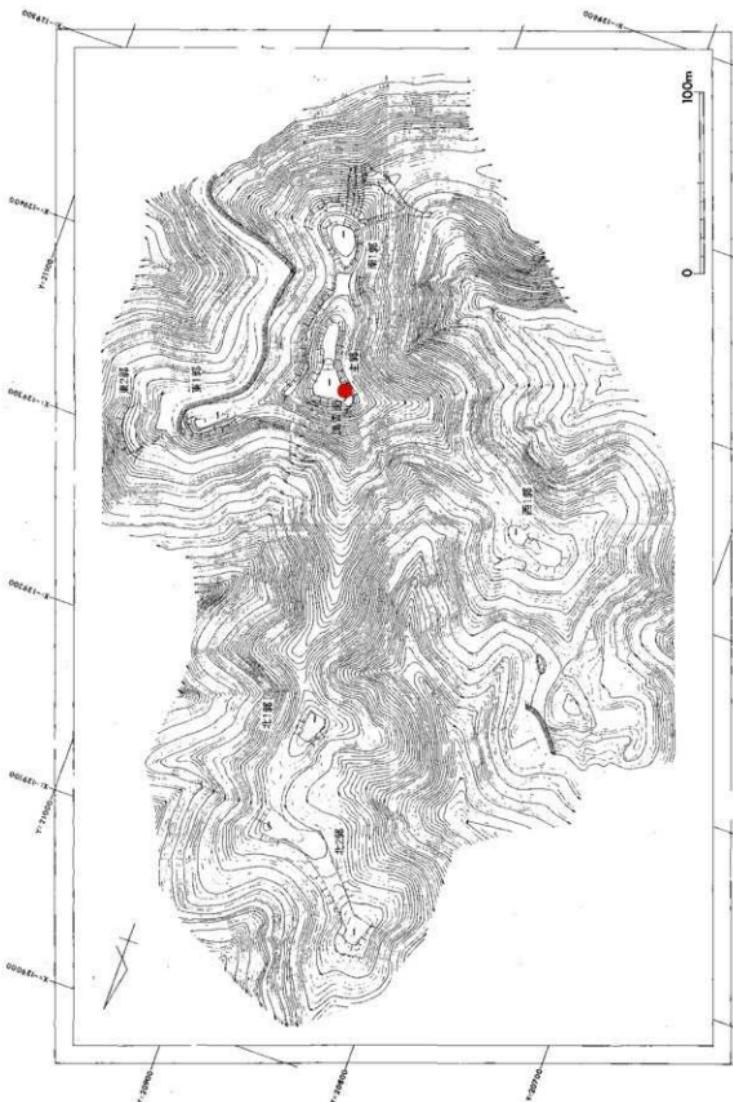
5月28日、29日に備前焼のすり鉢の破片・土鍤2コ・火打ち石に用いたと考えられる川石・炭を採取した。以降、陶磁器片・土器片なども出土したがいずれも流れ込んだ遺物であった。

7月10日、土壠1か所・ビット3か所を検出し、翌日より7月25日までに新たにビット7か所を検出した。

7月31日に畦を含む調査地全体の地山までの掘り下げを完了した。



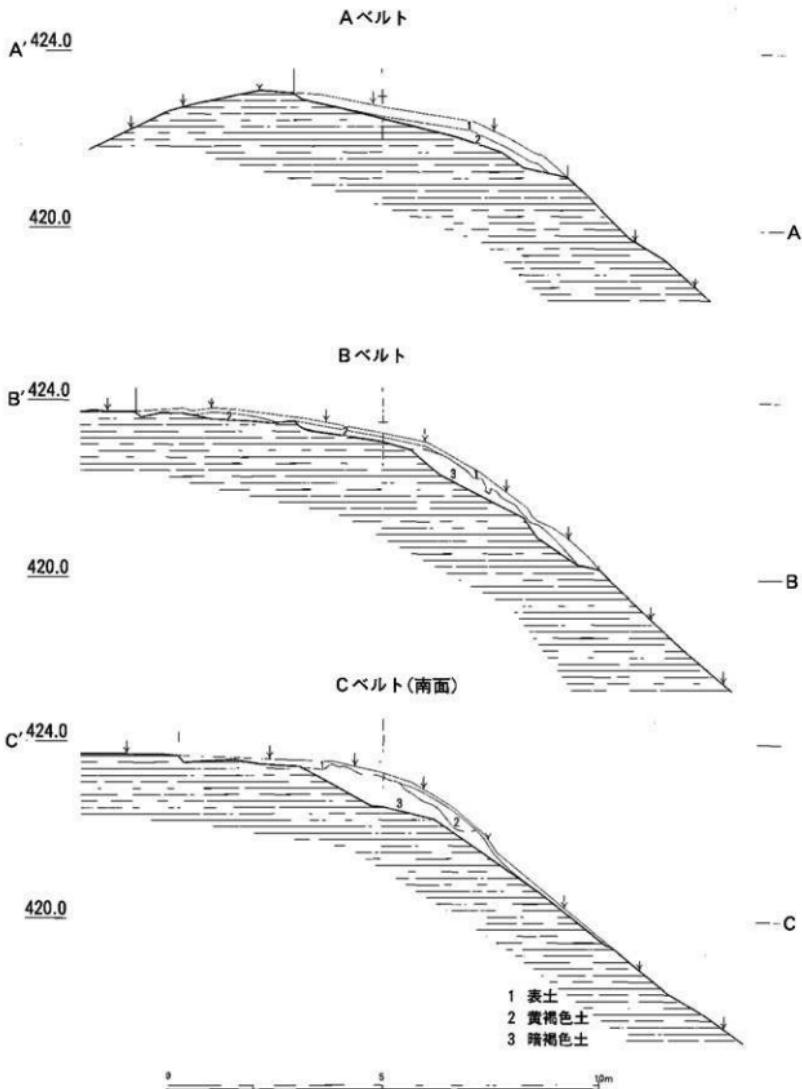
第2図 周辺の地形と高城跡の位置



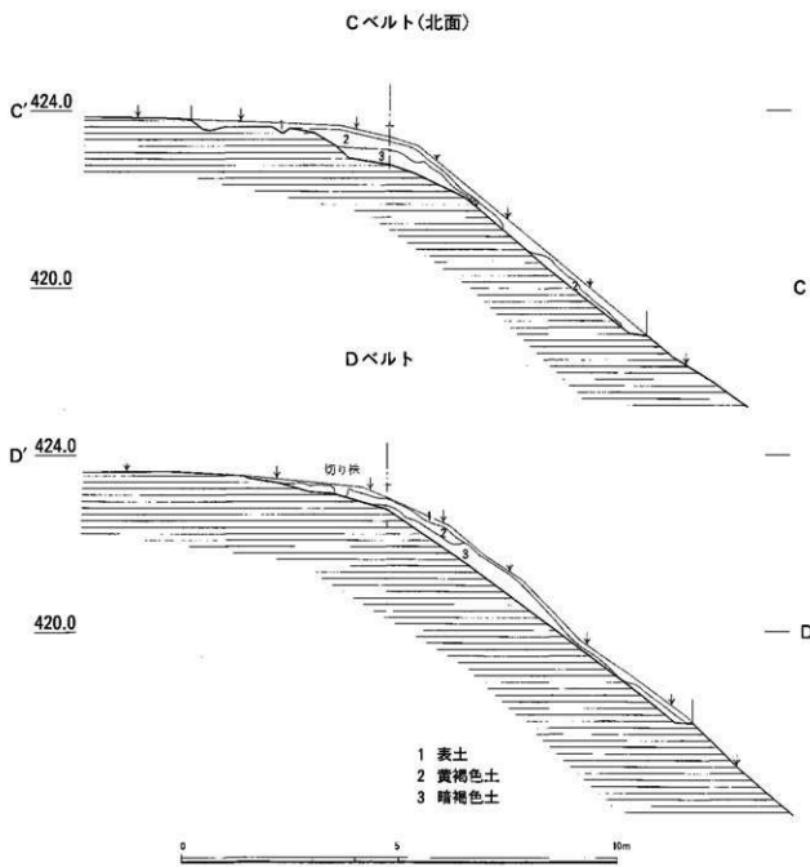
第3図 高城跡全体測量図



第4図 高城跡主郭地形測量図（1／300） 赤刷は発掘後



第5図 土層堆積状況

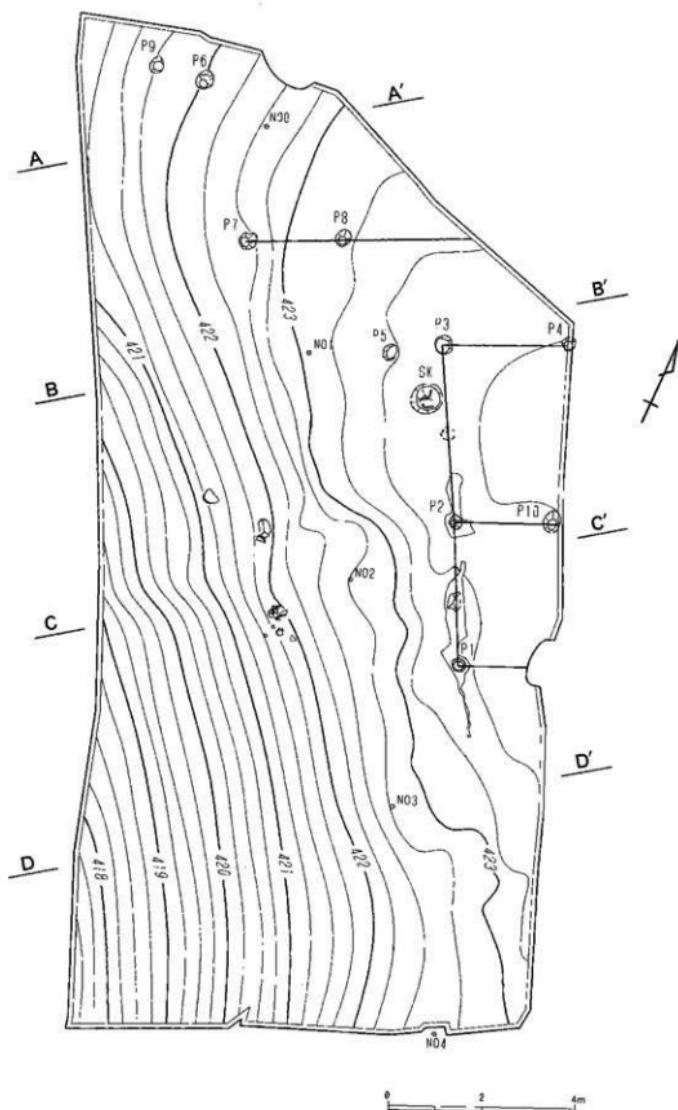


第6図 土層堆積状況

2. 検出遺構

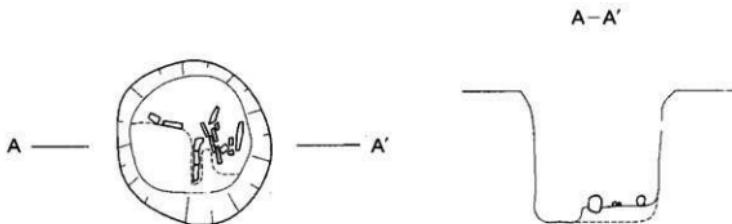
平坦面よりビット10個が確認された。これらのビットは直径約30~40センチで、深さは深いもので約90センチ、浅いもので約20センチを計る。このうち5個は規模が2間(7メートル)×1間以上又は3間×1間以上の中央に間仕切りのある掘立柱建物跡の可能性がある。また2個は建物に並行した柵列の跡と考えられる。そして、建物跡の周囲に緩やかな段丘が施されていたと考えられる。

土壌は炭化物を「字」状に中に残し直径70センチ程度でビット間の延長上にあり、用途・目的については不明である。



第7図 造構配図

ピット	上面(標高)m	下面(標高)m	深さ cm	直 径 cm	備 考
P 1	423.21	422.98	22	30	
P 2	423.39	422.94	45	28	
P 3	423.61	422.90	71	39	
P 4	423.81	422.93	88	28	
P 5	423.45	422.88	57	35	
P 6	422.15	421.76	39	40	
P 7	422.52	421.80	72	37	
P 8	423.18	422.93	24	35	
P 9	421.73	421.34	39	32	
P 10	423.69	423.08	61	42	
S K 1	423.58	423.04	54	65	炭化物有



第8図 SK 1実測 (1/20)

3. 出土遺物

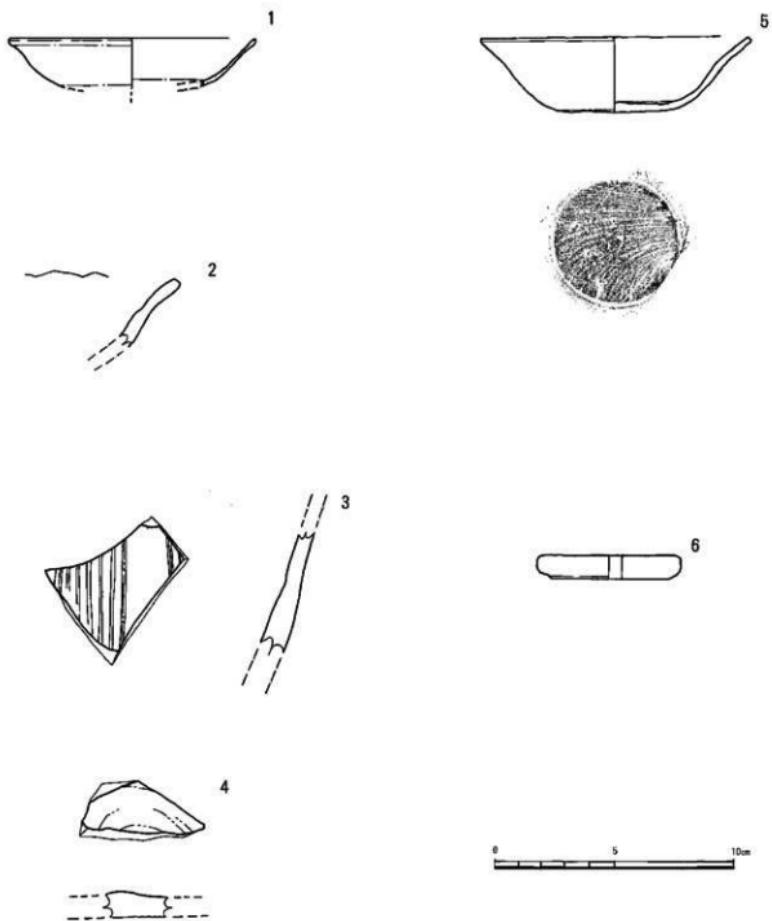
調査区内の出土遺物として、陶器・磁器・土師質土器が少量出土している。

第9図1は磁器と思われる口縁部の残る皿である。直径は10.2センチである。

2は青磁と思われる器形不明の口縁部である。口縁は波状（あるいは花弁状）の紋様が施されている。

3, 4は備前焼と思われるすり鉢である。3は全体にナデの後、内面には特有のスジを施してある。4は3の底部と思われるものである。

5, 6は土師質土器である。5は皿で直径11.4センチ高さ3.1センチ厚さ約3ミリであり、底面に糸切痕が残る。また内面には炭化物（スス）が残る。6は器形不明の底部であるが、中心に穿孔された円盤状の製品に仕上げられている。底面は摩滅しているが糸切痕が残る。



第9図 遺物実測図

第4章 ま と め

高城は那賀郡跡市 乙明城と旭町今市 家古堀城を本拠とする福屋氏の支城であったとされ、鎌倉年間に福屋氏が益田氏から独立するのを期に市木領有が始まったとされるが、築城は不明である。

高城の郭群はよく整えられており比較的規模の大きな山城である。

今回の調査は半郭部西側の面積150m²にすぎず、なおかつ1／3が斜面に当たるためその状況は判然としなかったが、東側への高まりにかけて建物跡が続いていることを示唆した。また、出土遺物が15～16世紀のもの特徴を持ち、永禄5（1562）年に福屋氏が滅亡したことから判断して15～16世紀には存在したものと考えられる。

参考文献

- 「石見の郷上史話 下巻」 山根俊久 石見郷土研究懇話会
「毛利氏の研究」 藤木久志編 吉川弘文館
「日本城郭大系」 新人物往来社
「中國横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」

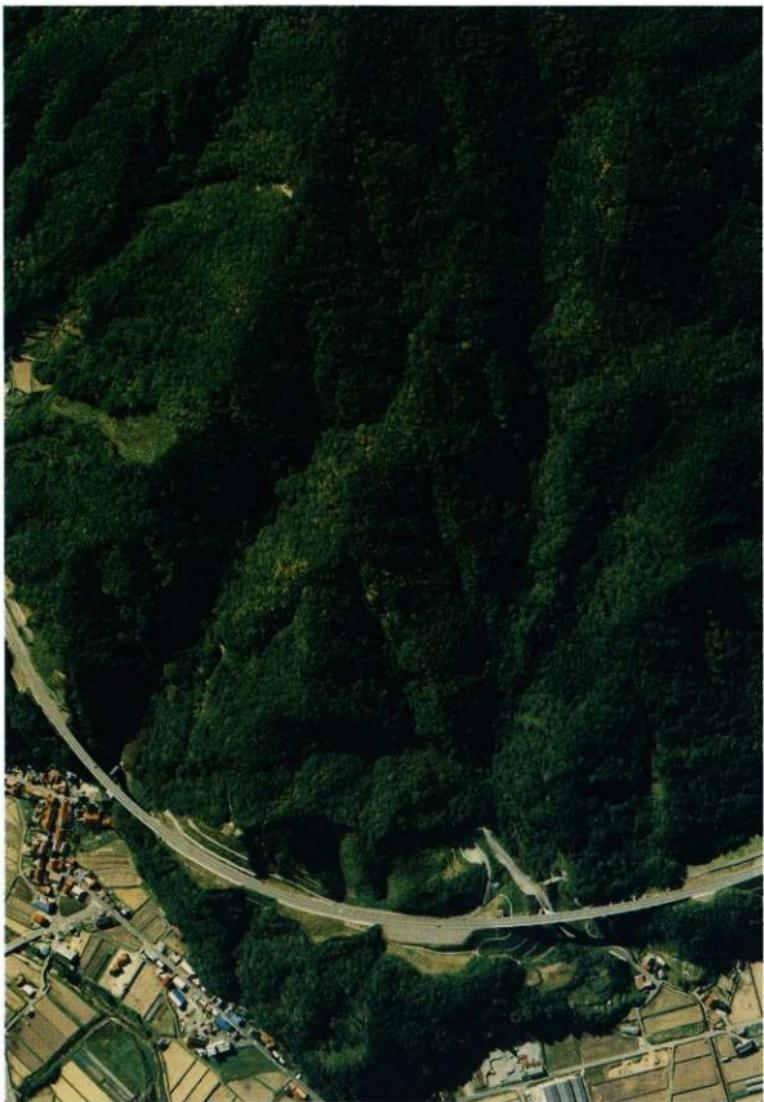
1991 島根県教育委員会

- 「瑞穂町誌 第1集」 1994 瑞穂町
「旭町誌 上巻」 1977 旭町教育委員会

引用

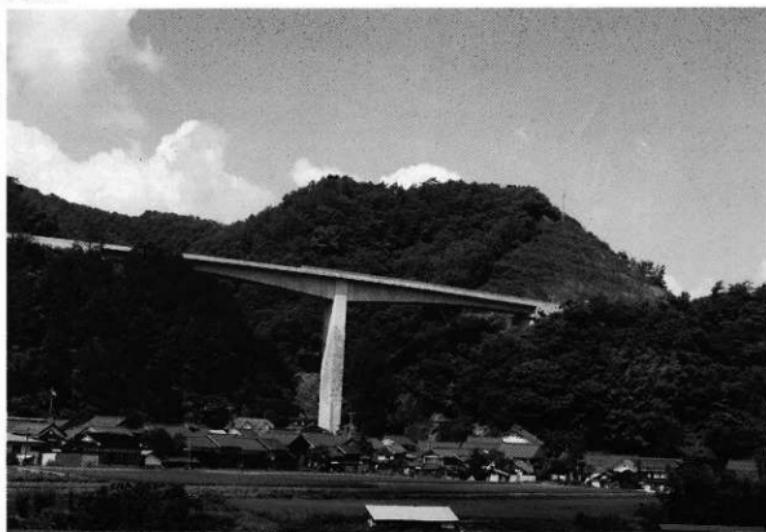
第2図 周辺の地形と高城跡の位置・第3図 高城全体測量図は、「中國横断自動車道広島浜田線建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ」 第Ⅱ部 各遺跡の調査 第Ⅲ章 桜尾城跡
第1図・第2図より転載

図版 1



高城跡全景と周辺の地形

図版 2



高城跡近景



主郭調査前の状況

図版 3



主郭調査前の状況



斜面発掘前の状況

図版 4



完 捨 状 況



ビット配列状況

図版 5



ピット配列状況

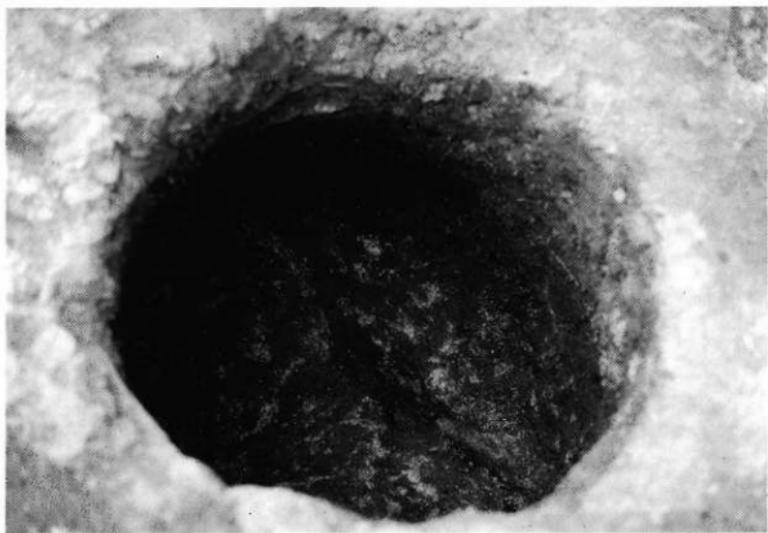


ピット配列状況

図版 6



S K 1 炭化物出土状況



S K 1 完掘状況

図版 7



土層堆積状況 Dベルト

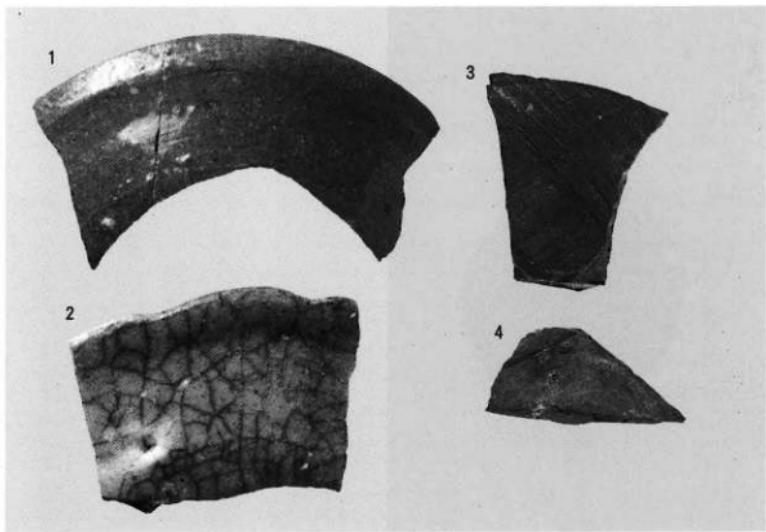


土層堆積状況 Cベルト(北面)細部

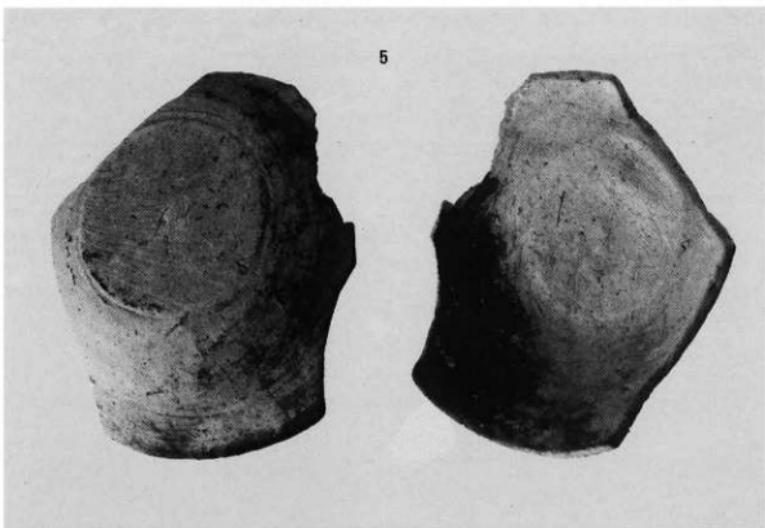
図版 8



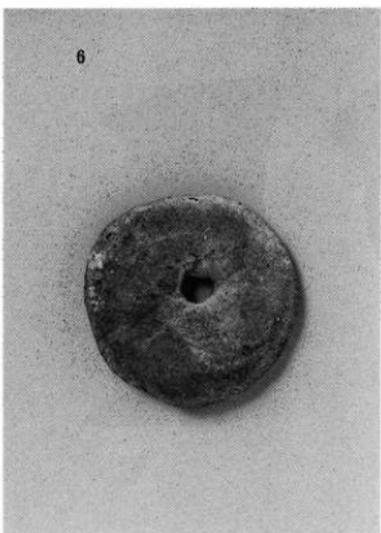
石検出状況



出土遺物 陶磁器



出土遺物 土質質土器



出土遺物 土製品

報告書抄録

ふりがな	たかじょうあとはくつちょうさほうこくしょ			
書名	高城跡発掘調査報告書			
副書名	NTT中国移動通信網携帯・自動車 電話市木・淨泉寺基地局建設に伴なう発掘調査			
巻次	第7集			
編集者名	難波泰幸			
編集機関	旭町教育委員会 TEL.0855-45-1234			
所在地	島根県那賀郡旭町大字市木637番地			
発行年月日	西暦1998年3月31日			
所収遺跡名	所在地	コード 市町村		調査期間
高城跡	島根県那賀郡 旭町大字市木 6749番地	遺跡		調査面積(m ²) 199707410 ~19970731 150
調査原因				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
高城跡	城郭	中世	柱穴列	土師器 陶磁器
				遺物は少量

**旭町埋蔵文化財調査報告書7
高城跡発掘調査報告書**

発行者 旭町教育委員会

**印刷者 浜田市相生町3889番地
柏村印刷株式会社
電話(0855)23-2040**
